

OSPO の採用は、依然としてテック産業がもっとも活発です。

が、公的機関や教育機関も積極的になっています。



OSPO についてエンジニアリングチームや製品チームの成功に「とても」、もしくは「極めて」重要である、

と回答した人は、この 1 年間で 54% から **63%** に増加しました。



OSPO の専門化が続いており、

正式に専門組織となっている OSPO は 54% から **58%** に増加しました。



51% は、今年度中にオープンソースのイニチアチブに対する投資を増やす

可能性が「非常に」、あるいは「ある程度」高いと回答しています。

回答者の **77%** が、自社ソフトウェアの実務にオープンソースプログラムがプラスの影響を与えたと答えました。



OSPO の設立を計画している回答者の **63%** が 1 年以内にそのプロセスを開始することが期待されています。

OSPO の 35% はソフトウェア エンジニアリングおよび開発部門にあり、18% は CTO オフィス内にあります。



定評のある OSPO は、コード品質の向上や

CI/CD パイプラインの活用といった事例で際立っています。



OSPO の恩恵は「オープンソースの使用やビジネス上の依存関係」、
「イノベーションの拡大」といった領域でより多く意識がされ、上位を占めています。

